

11月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	20,154	115	22,230	243	92	213	0		愛媛、熊本、長崎、佐賀、和歌山産中心で全体の9割を占める。11月からは早生みかんとなる。愛媛は玉太りよく、M中心だがL比率も高い。熊本、長崎は玉太りよく糖度も高く、安定した出荷ペースとなる。全体の入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。
りんご類	8,567	70	9,164	254	120	239	2,891	33.7	青森、山形、長野産中心の入荷となる。品種はふじが約7割を占め、ジョナゴールド、王林など種々出揃う。各産地ともに前年の猛暑で花芽が少なく、大雪の影響もあり生産量は大幅減の見込み。全体の入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。
かき類	6,491	100	7,703	327	76	242	409	6.3	新潟、奈良、和歌山、福岡産が中心となる。品種は富有柿、平種無柿、次郎柿など。新潟は肥大良好で11月中旬がピークで月末まで入荷。奈良は全体に小玉傾向。和歌山は切り上がり及早まり数量減の見込み。全体の入荷量は前年並、価格は前年を大幅に下回る見込み。
西洋なし (ラ・フランス)	1,148	100	1,261	309	85	275	1,141	99.4	山形産中心の入荷でほぼ10割を占める。山形は着果数量は平年並みだが、昨年同様小玉傾向(Mサイズ18玉中心)となっている。夏場の高温でデンプン蓄積量が多く、高糖度の仕上がり期待できる。全体の入荷量は前年並、価格は前年より大幅に下回る見込み。
メロン類	769	100	827	575	102	597	4	0.5	熊本、静岡、茨城産が中心となる。品種はアールス、アンデスなど。熊本は作付面積は前年並みで生育は順調、この時期のアンデスのほぼ全量を占める。静岡はアールス主体の出荷となり全体に生育は順調、6玉8~9kg台中心の見込み。全体の入荷量、価格とも前年並の見込み。
ぶどう類	519	90	527	769	101	705	14	2.7	長野、青森、山梨、岡山産が中心となる。品種は巨峰、スチューベン、アレキサンドリアなど。長野の巨峰は貯蔵ものとなり中旬までは減りながら推移し11月いっぱいの見込み。青森のスチューベンは全体の入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。
いちご類	426	105	643	1,729	95	1,676	0	0.0	栃木産が約6割を占め、福岡、静岡、佐賀産などが入荷する。栃木は生育は順調で11月中旬から増量し、年内の出荷量は全円を上回る見込み。福岡は生育順調で11月10日頃から入荷スタート予定。入荷全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。